

有料化財源活用方法に関する市民アンケートについて

1 調査対象

市内全域 3,000 世帯（業者収集マンションは除く）

2 調査方法

まち美化事務所の職員が、調査票を担当区域ごとに無作為に配布し、回収は郵送により実施。

※調査票にリサイクルボールペンを同封することで、回収率の向上をはかる。

（参考）各区の配布数

北区 上京区	左京区	中京区	東山区	山科区
460	330	180	100	390
下京区	南区	右京区	西京区	伏見区
150	190	420	300	480

3 その他

3,000 世帯に配布する以外に、エコまちステーションの来客者に対する配布も行う。

4 スケジュール

日付	内容	備考
6月17日(木)	第1回 WT	アンケート案を審議し、終了後、アンケート案を訂正
6月下旬	アンケート配布	
7月上旬	アンケート回答締切	アンケート配布日からおおむね10日後
7月中旬までに	アンケート結果の集計・解析 第2回 WT 資料への反映	

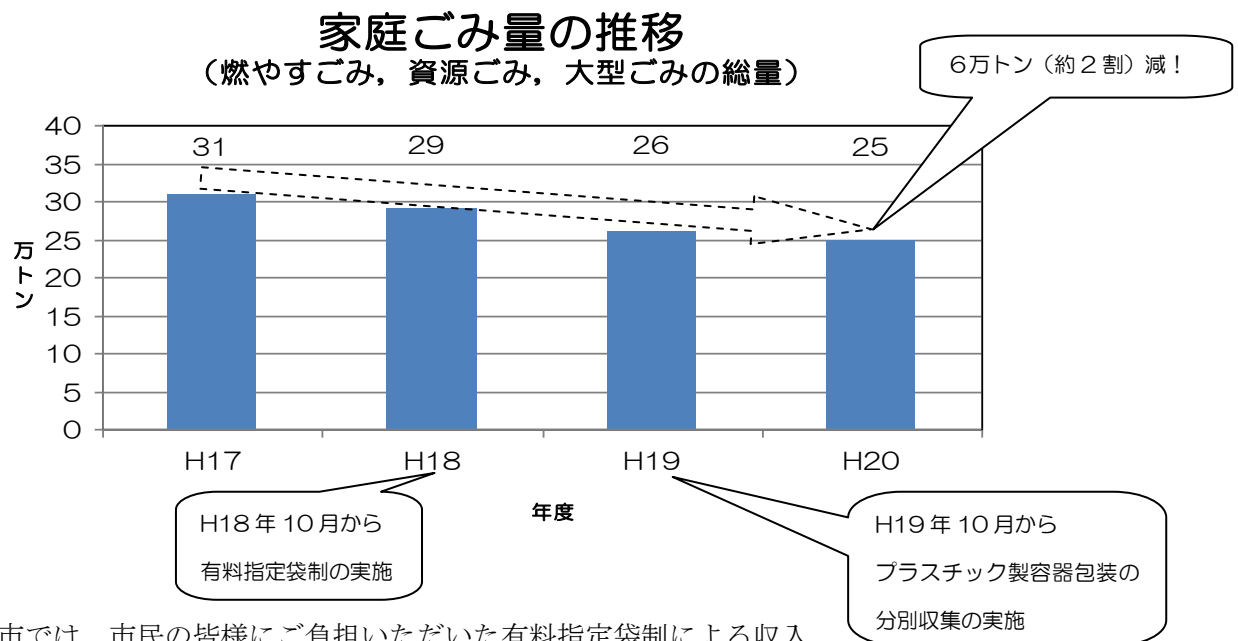
京都市の家庭ごみ有料指定袋制に関する アンケート調査へのご協力のお願ひ

平成22年6月

京都市廃棄物減量等推進審議会

皆様におかれましては、日頃から京都市の環境行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

京都市では、家庭ごみの減量・リサイクルの促進につながる効果的な施策として、平成18年10月から有料指定袋制を実施しています。皆様のご理解とご協力の下、制度実施前と比較して、**約6万トン（約2割）の減量**を図ることができました。



京都市では、市民の皆様にご負担いただいた有料指定袋制による収入（有料化財源※）を、「京都市民環境ファンド」に組み入れ、① ごみ減量・リサイクルの推進、② まちの美化の推進、③ 地球温暖化対策の3つの分野の事業に活用しています。

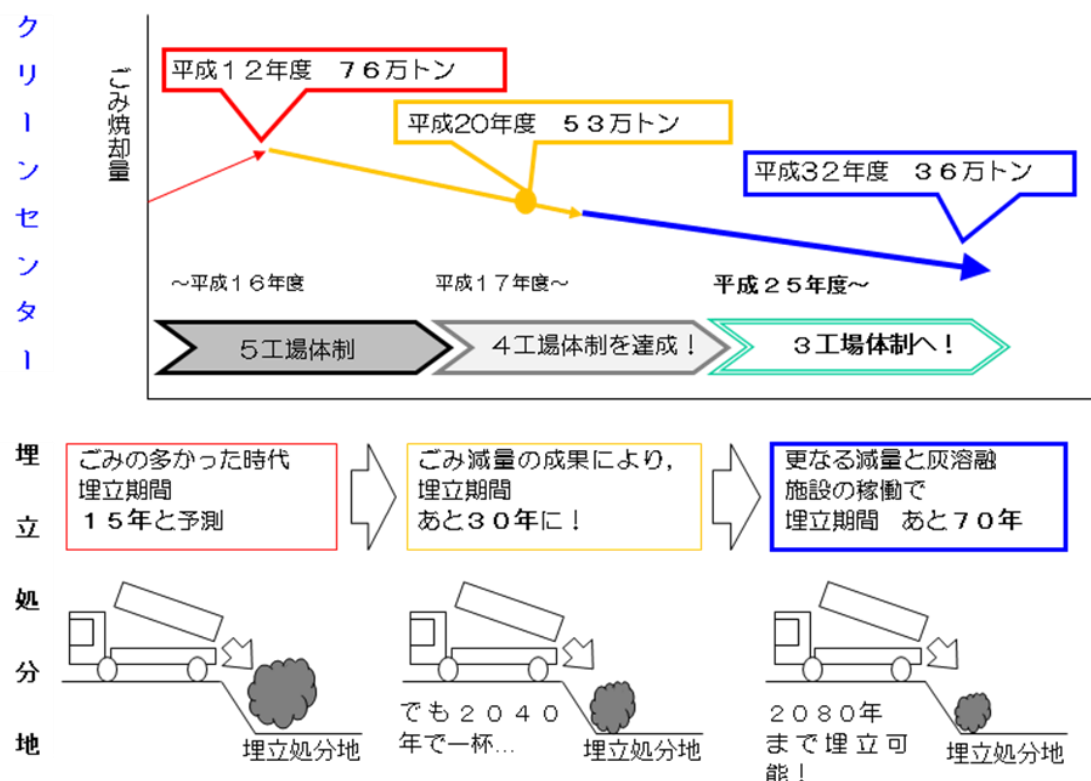
～ ※ 有料化財源とは ～

有料指定袋制による収入から袋の製造経費など必要経費を差し引いた額で、平成22年度予算では9億6,710万円を見込んでいます。

【裏面に続きます】

京都市は内陸都市であり、これ以上埋立処分地を造ることは困難であることから、今後さらにごみを減らさなければなりません。

このことから、有料化財源を活用した取組をさらに促進するなど、ごみ減量・リサイクルの取組を強化していくことが求められています。



この度、市民の皆様のご意見をアンケート調査で把握させていただき、有料指定袋制の今後の運用に向けた基礎資料として活用していきたいと考えています。

つきましては、調査の目的をご理解いただき、回答へのご協力をお願いいたします。

- ☐ 本アンケート調査は、市内にお住まいの方の中から無作為に選んだ 3,000 世帯の方にご回答をお願いしています。
- ☐ 回答は、別添の調査票に直接ご記入ください。
- ☐ 回答いただいた内容につきましては、上記の目的以外には使用いたしません。
- ☐ ご記入が終わった調査票は、平成22年7月12日（月）までに、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに郵便ポストへ投かんしてください。

～ 調査票記入用に、リサイクルボールペンを同封しております ～

ご質問等がありましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。

■ 京都市廃棄物減量等推進審議会事務局

京都市環境政策局 循環型社会推進部 循環企画課（担当：河添、^{いんどう}犬童）

TEL：075-213-4930、FAX：075-213-0453

調 査 票

※ごみの排出等、普段ごみを扱う機会が多い方がご回答ください。

Q 1 普段どのようにしてごみを捨てていますか。

(あてはまるもの 1 つに○)

1. 有料指定袋に入れて京都市にて収集 2. 一般の透明袋に入れて民間事業者にて収集 3. 一般の透明袋に入れて民間事業者にて収集



資源ごみのみ有料指定袋に入れて京都市にて収集



Q 2 有料指定袋制が導入されてから、ごみの出し方やごみの減量・リサイクルに関する取り組み方が変わりましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 集団回収，古紙回収，店頭回収（トレイ，ペットボトルなど）などを活用するようになった
2. 資源ごみ収集に積極的に出すようになった
3. 包装の少ない商品を買うなど，買い物時の考え方が変わった
4. 紙箱をつぶす，切る，詰め込むなど，出し方が変わった
5. あまり変わっていない
6. その他

Q 3 有料指定袋の価格についてお伺いします（現在の袋の価格：45リットル袋1枚45円）。

指定袋制を導入後、皆様の御協力により、家庭ごみが約2割減少し、現在も減量効果が維持されています。

一方、京都市は内陸都市であり、埋立処分地の拡大が難しいため、さらなるごみの減量が必要です。

また、有料指定袋制を実施しているほとんどの市でごみが減量しており、一定の負担感を感じていただくことが、ごみの減量につながっているとも考えられます（全国市町村の平均：大袋（40～45リットル）1枚43円）。

こうした状況を踏まえ、現在の価格について、皆様はどのようにお考えになるでしょうか。

(あてはまるもの 1 つに○)

1. さらなるごみの減量につながるよう，負担感を上げるべき
2. この程度の負担感がなければ，ごみの減量につながらない
3. ごみの減量は重要であるが，負担を感じる
4. 負担感が大きい
5. わからない

Q 4－1 京都市では、家庭ごみの有料指定袋制による収入(平成 22 年度予算額 9 億 6,710 万円)を活用し、①ごみ減量・リサイクルの推進、②まちの美化の推進、③地球温暖化対策の 3 つの分野に限定して様々な事業を行っていますが、このことをあなたは知っていますか。

(あてはまるもの 1 つに○)

1. 知っている 2. 知らない

Q 4－2 以下に有料化財源を活用している事業のごく一部を示しますが、質問項目の(1)～(3)について、該当する口にチェック(☑)を入れてください。

((1)で事業の内容をご存知ない場合、(2)、(3)の質問への回答は不要です。)

分 野	事 業	質 問 項 目		
		(1)事業の内容を知っていましたか？	(2)事業を活用したことはありますか？	(3)事業に有料化財源を活用していることを知っていましたか？
① ごみ減量・リサイクルの推進	蛍光管、使用済てんぷら油等資源物の回収拠点の支援	☐ は い ☐ いいえ	☐ は い ☐ いいえ	☐ は い ☐ いいえ
	ごみの処理・リサイクルを行う施設の見学会の実施(ごみ減量エコバスツアー)	☐ は い ☐ いいえ	☐ は い ☐ いいえ	☐ は い ☐ いいえ
②まちの美化の推進	市民の自主的な美化活動に必要なとなるごみ袋の配布やカラスネットの貸与	☐ は い ☐ いいえ	☐ は い ☐ いいえ	☐ は い ☐ いいえ
③地球温暖化対策	住宅への太陽光発電システム設置に対する助成	☐ は い ☐ いいえ	☐ は い ☐ いいえ	☐ は い ☐ いいえ

Q 4－3 Q 4－2 (1)で事業の内容を 1 つでもご存知であった場合、あなたはどこでそのことを知りましたか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 1. 市民しんぶん | 2. 地下鉄・市バスの広告 | 3. 市からのチラシ |
| 4. インターネットのホームページ | 5. 新聞 | 6. テレビ |
| 7. ラジオ | 8. 地域の会合・説明会 | 9. 回覧板 |
| 10. その他（具体的に： | | ） |

Q 4－4 Q 4－2 (3)で有料化財源を活用していることを 1 つでもご存知であった場合、あなたはどこでそのことを知りましたか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 1. 市民しんぶん | 2. 地下鉄・市バスの広告 | 3. 市からのチラシ |
| 4. インターネットのホームページ | 5. 新聞 | 6. テレビ |
| 7. ラジオ | 8. 地域の会合・説明会 | 9. 回覧板 |
| 10. その他（具体的に： | | ） |

Q 5 今後、京都市が実施する様々な事業を市民の皆様に活用していただくためには、まず事業の内容について知っていただくことが重要と考えられますが、どのような方法であればそうした事業の情報を得やすいと思われますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 1. 市民しんぶん | 2. 地下鉄・市バスの広告 | 3. 市からのチラシ |
| 4. インターネットのホームページ | 5. 新聞 | 6. テレビ |
| 7. ラジオ | 8. 地域の会合・説明会 | 9. 回覧板 |
| 10. その他（具体的に： | | ） |

Q 6－1 下記の一覧の事業について、今後、有料化財源を活用して実施すべきと思われますか。以下の中から該当する番号に○をつけてください。

(一覧)			① 実施すべき	② どちらかといえば実施すべき	③ どちらかといえば実施すべきでない	④ 実施すべきでない	⑤ わからない
分野	事業	事業内容					
ごみ減量・リサイクルの推進	A. 市民活動への支援	・蛍光灯や使用済てんぷら油等の回収拠点の設置 ・地域の古紙等の集団回収に対する助成 など	1	2	3	4	5
	B. 団体等への支援	・区役所等と協力して実施するごみ減量の取組への助成 ・環境分野における新技術開発資金への助成 など	1	2	3	4	5
	C. 市民等への支援	・電動式生ごみ処理機・生ごみコンポスト容器購入の助成 など	1	2	3	4	5
	D. 普及啓発の推進	・ごみの処理・リサイクルに関する施設見学会の実施 ・ごみに関する情報誌の作成・配布 など	1	2	3	4	5
	E. 新たなリサイクルの取組	・点滴バッグ・インスリン注射などの在宅医療廃棄物の回収 ・塗料・薬品などの有害危険廃棄物の回収 など	1	2	3	4	5
	F. CO ₂ 削減に貢献するごみ処理・リサイクル対策	・ごみ減量・リサイクル技術の調査・研究 ・生ごみから出るメタンガスの有効利用 など	1	2	3	4	5
まちの美化の推進	A. まちの美化活動の推進	・市民の自主的な美化活動に必要となるごみ袋の配布 ・カラスネットの貸与 など	1	2	3	4	5
	B. ごみの不法投棄対策	・パトロールや監視カメラ貸与制度による監視体制の強化 ・不法投棄頻発地域での撤去活動 など	1	2	3	4	5
地球温暖化対策	A. 環境にやさしいエネルギー活用の推進	・住宅への太陽光発電システム設置に対する助成 ・電気自動車の市民向けの共同利用（カーシェアリング） など	1	2	3	4	5
	B. 環境学習の推進	・小学生が家族ぐるみで取り組む環境学習プログラムの実施 など	1	2	3	4	5

Q 6－2 Q 6－1の一覧に記載しているもの以外で、上記の3つの分野で有料化財源を活用して実施すべきとお考えになる事業があれば、以下に具体的にご記入ください。

(具体的にご記入ください)

Q 7 現在、京都市では、ごみの減量とリサイクルを推進するために、資源リサイクルセンターの運営管理経費に有料化財源を活用しています。あなたはごみの減量・リサイクルに関する施設の運営管理経費に有料化財源を活用することについて、どのように思われますか。

(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 活用すべき | 2. 一部であれば活用すべき |
| 3. 活用すべきでない | 4. どちらでもよい |
| 5. その他(具体的に： |) |

Q 8 京都市では、有料化財源を様々な事業に活用するほか、平成21年度より一部を「京都市民環境ファンド」として積み立てております。昨年度、京都市では、「みんなで目指そう！ごみ半減！循環のまち・京都プラン」を策定し、ごみの量をピーク時の半分以下に減らす計画を進めています。

今後、ごみの減量・リサイクルや環境学習等に関する施設の整備に当たって、積み立てている有料化財源を活用することについて、あなたはどのように思われますか。

(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 活用すべき | 2. 一部であれば活用すべき |
| 3. 活用すべきでない | 4. どちらでもよい |
| 5. その他(具体的に： |) |

Q 9 ご意見をお伺いするのはこれで終わりですが、いただいたご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについて少しお尋ねします。

1 性別

(あてはまるもの1つに○) _____

1. 男 2. 女

2 年齢

(あてはまるもの1つに○) _____

1. 20歳未満 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上

3 世帯人員

(あてはまるもの1つに○) _____

1. 1人(单身) 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人
6. 6人 7. 7人 8. 8人 9. 9人以上

4 お住まい

(あてはまるもの1つに○) _____

1. 北区 2. 上京区 3. 左京区 4. 中京区 5. 東山区 6. 山科区
7. 下京区 8. 南区 9. 右京区 10. 西京区 11. 伏見区

5 職業

(あてはまるもの1つに○) _____

1. 自営業 2. 会社員・公務員など給与所得者 3. 主婦・主夫
4. アルバイト・フリーター 5. 学生 6. 無職
7. その他 ()

ご協力ありがとうございました。同封の封筒に入れて、ご返送ください。